



五中だより

府中市立府中第五中学校

校長 酒井 泰

令和3年3月26日 No.15

令和2年度 卒業式

今年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染防止の徹底のため、卒業生と保護者（一家庭2名まで）、教職員のみの参加で行われました。また、内容も国歌斉唱、卒業証書授与、校長式辞、送辞・答辞という短縮された形での実施となりました。そのような中、卒業生は立派に堂々と一人一人卒業証書を受け取り、本校を巣立っていきました。

<校長式辞(一部抜粋)>

明るい春の日差しが、桜の花や緑の葉を照らし、きらきらと輝き、皆さんの門出を祝っているようです。府中市立府中第五中学校を卒業し、新たな道を歩み始める123名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。(中略)

さて、卒業生の皆さん。本日、皆さんは3年間を過ごし、思い出がいっぱい詰まった府中第五中学校を巣立っていきます。

入学してからの2年間は順調に教育活動が行われ、皆さんにとって楽しく有意義な学校生活を送ることができていました。そして、最高学年となった3年生、皆さんは自らの希望と周囲の人々の期待を胸に、義務教育9年間の集大成として様々な取組に挑戦し、大きく自分を成長させることに精一杯努力するはずでした。しかし、新型コロナによって、あつて当たり前と思っていた日常の学校生活は一変しました。毎日の授業、運動会や合唱祭、修学旅行などの学校行事、委員会や係活動、そして部活動など、中学校生活でこれまで当然のように取り組むことができていたものが、中止となったり、実施できても様々な制約を受けた上で実施せざるを得なくなったりしました。

私は、今年度幾度となく、皆さんに「コロナ禍なので本当に残念なのですが」という言葉を使ってお話をしました。この言葉は、皆さんの楽しみや成長するための大切な機会を奪ってしまうものなので、本当に辛く苦しく、そして寂しい言葉でした。しかし、皆さんは、こうした状況にめげず、くよくよと落胆することなく、常に前を向いて努力してくれました。

与えられた状況を受け入れ、その中で自分たちができること、やらなければならないことを探し、黙々と取り組む意欲を見せ続けてくれました。

これまで誰も経験したことのない長期にわたる臨時休業、それに伴い短縮された長期休業、3年間の集大成として思い切りチャレンジしたかった部活動の夏の大会やコンクール、こうした皆さんの学校生活になくしてはならないものがなくなってしまうとしても、黙々と努力を積み重ねてくれました。生徒会や委員会活動では、生徒の自主性を生かした新たな取組を企画・実行してくれました。ボランティア活動にも皆さんが率先して取り組んでくれたことにより、ボランティア活動に積極的に取り組む新たな五中の伝統が確立されたと思っています。一番辛い3年生が、しっかりと目標を見失わず、学校生活を送っているという皆さんの姿は、下級生にとって本当に心強く、良い手本になったことと思います。

私は、皆さんのこうした努力は最大限の称賛に値することと、声を大きくして言いたい気持ちで一杯です。

きっと、これからしばらく月日が経ち、今年度を振り返った時、「あの年はコロナで大変だったよね」とか、「何もかも中止でやりたいこともできなかった辛い年だったよね」と言われるかもしれません。事実、大変で、皆さんには、これまでのどの中学生も体験したことがない、我慢と苦労がのしかかっていたことと思います。

しかし、私はこういう状況だからこそ手に入れることができたものもあったのではないかと思います。臨時休業で学校に行きたくても行かれず、自宅で学習を進めなければならなくなり、自分



のやりたいことを探し続ける中で、新たな自分の才能に気づいた人もいたのではないのでしょうか。また、学習をすることの意味や人との関係をどのようにして保つべきなのか、自分自身の存在とは何なのかなど、自問自答する時間があり自分自身と向き合う時を過ごしたからこそ、これまでの中学生が経験したことのない成長を手に入れることができたのではないかと思います。

誰を恨むこともできない、ただただ新型コロナの収束を祈り、解放された時の喜びを期待しながら、日々の不自由さを耐え忍ぶ中で、精神面で大きく成長することができたのではないのでしょうか。

詩人で画家の星野富弘さんの言葉に次のようなものがあります。「辛いという字がある。もう少しで、幸せになれそうな字である」

この言葉には、辛いことを乗り越えた先に、自らの成長と夢や希望を実現できる幸せな時がやってくる、もう少しで困難を乗り越え、幸せになれるのだから、信じて前に進もうという意味が込められていると思います。

さて、最後に皆さんに大切にしてほしいことがあります。皆さんは、3年間の中学校生活で何事にも代えがたい友人を得たのではないのでしょうか。楽しい時には共に喜び、つらい時には励ましてくれる、一生付き合える友と呼べる人と出会ったことと思います。

この府中第五中学校で共に過ごし、共に助け合った友人をこれからも宝物として大切にしたいと思います。損得で結びついたものではない、心と心で結びついた友人関係は、たとえ、これから別々の道を歩んだとしても、これからの人生で、必ずや心強い味方となり、皆さんの人生を支え、豊かなものとしてくれることでしょう。ぜひ、強い絆でそのつながりを保ち続けてほしいと思います。(後略)

学年末の活動について

3月に入ってから2年生と3年生は、新型コロナ感染防止対策を取った上で、鎌倉の校外学習を実施しました。1年生は合唱ができないことから代替行事として「合奏発表会」を開催しました。マスクをしたままでしたが、飛沫感染を心配することがないように配慮して素晴らしい演奏を披露してくれました。コロナ禍における新たな取組となりました。

また、感染防止が徹底できる種目を選定し、校庭で球技レクリエーションやリレーなどの学年レクリエーションを全ての学年で短時間でしたが、実施しました。マスク着用、間隔の保持、消毒の徹底などに留意しながら活動という制約がある中でしたが、教科の授業とは異なる活動に生徒は意欲的に取り組んでいました。



ご協力ありがとうございました

令和2年度が本日をもって終了となります。この一年、本校の教育活動についてご理解・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。特に、新型コロナの感染防止の徹底のため、教育課程が大幅に変更となる異例の年度でしたが、時々の学校の判断にご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

来月から始まる新しい年度も、今年度に引き続き、教育活動の様々な場面でご協力をいただくことになるとと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

